

1 生理検査における患者急変時の対応

2  
3 ○松田優子(小張総合病院) 石井淳子 矢島愛美 鈴  
4 村悟史 美濃亜紀子 渡辺秀雄 中野英貴 幡野薫

5  
6 【目的】生理機能検査は、さまざまな検査機器を用  
7 いて私達が直接患者に接して行う検査である。その  
8 ため、検査中の体調不良や急変などに直面する事も  
9 少なくない。今回そのような患者急変時にどのよう  
10 に対応すべきかについて、当院の例を挙げ考えてい  
11 く。【当院での対応】当院では緊急患者対応マニュアル  
12 を作成し、検査室に掲示している。事前に患者の  
13 状態が悪く、急変する可能性が高い場合は、医師及  
14 び看護師立ち会いのもとで検査を施行し、患者の意  
15 識はしっかりしているが、検査途中で気分不快を訴  
16 えた場合には①担当医師へ報告し指示を仰ぐ、②看  
17 護師を呼ぶ、③その間に生理検査室で行えるバイタル  
18 を測定(心電計でのモニタリング、血圧測定など)  
19 するといった内容である。但し、意識混濁や顔面蒼  
20 白などの短時間で状態が悪化する危険性があると判  
21 断した場合、「コード・ブルー」を要請する。「コー  
22 ド・ブルー」とは患者の容体が急変した際の、緊急  
23 事態発生、至急全員集合を意味する病院内の隠語で  
24 ある。「コード・ブルー」を要請する事により、医師  
25 や看護師が救急カートなどを持って急変した患者の  
26 元に駆けつけ、迅速な処置が行われる。しかしこの  
27 ようなマニュアルは作成されてはいるが、人間的な  
28 問題により技師一名で検査を行っている現状もある。  
29 さらに、生理検査室にバイタルを測定するための血  
30 圧計や救急カート、AEDが備えられていない事も問  
31 題点の一つと言える。【まとめ】今後はこのような問  
32 題点を考慮し、患者急変時に対応できるよう最低限  
33 必要な備品は検査室に常備し、外部との連絡手段も  
34 必ず確保する必要がある。さらに全てのスタッフが、  
35 迅速な対処ができるよう、日頃から情報交換をし合  
36 い、心肺蘇生法やAEDの使用法などの講習を積極的  
37 に行っていきたい。